

地理歴史科授業案
(地理総合)

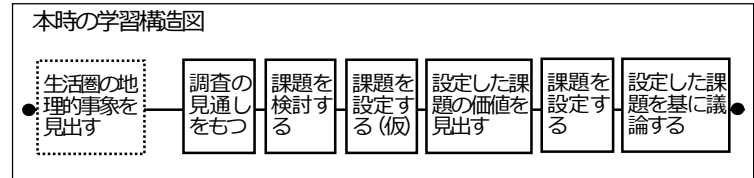
日時：2023年12月14日(木) 4校時
教室：地歴公民教室(最大64名)

生徒：1年1組(40名)
授業者：成田冬真

- 1 単元名「理想の生活圏を考えよう」
- 2 単元の目標
- 3 単元の評価基準
- 4 単元の指導と評価の計画(全15時間)
- 5 本時(第1次2時間目)

別紙「指導と評価の計画」参照

- (1) 本時の目標
 - ・ 探究の手法について理解し、適切な問い(課題)を立てる(設定する)ことができる。【知識・技能】
 - ・ 地域社会の持続性に着目し、深刻性や重要性といった根拠を基にした問いとなるよう多面的、多角的に思考し、表現することができる。【思考・判断・表現】
- (2) 学習の展開



【前時】

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価規準(評価材)
(参考) 前時の学習の展開 詳しくは、別紙参照	1 地理総合の振り返り (1) 情報を収集し、整理する方法は多種多様であり、情報の種類や表現方法によって、適性があること (2) 自然環境と人間の生活文化は相互に関係し合い、影響し合って成り立っていること (3) 世界の人々の生活文化は多様性をもち、その多様性は尊重すべきであること (4) グローバルな課題に対して国境を越えた解決が求められていること 2 問いを生み出す(疑問に思う)ことの反復練習 3 「生活圏のちょっと気になるところ」について意見交換 4 単元全体に関わる問いを把握 【単元全体に関わる問い】 持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、その実現のために私たちはどのように関わることができるのだろうか。 5 単元に関する興味関心レベルを見取るアンケートに回答	一斉 個人グループ	○肌感覚でOK ※質よりも量を重視 ○「Figma/Figjam」を用いて、考えを共有する ○ アンケートは授業改善を目的とするものであり、評価対象外であることを説明する。	【技】地域の情報を効果的に収集したり、収集した情報をもとに資料を作成したりしている。 【態】よりよい社会の実現を視野に、地域の課題を主体的に追究、解決しようとしている。 (Googleform)

【本時】

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価規準(評価材)
導入 本時の問いの確認(学習の見通し)	(問い)私たちの地域はどのように変化し、どのような課題がみられるのだろうか 地域調査の見通しを持つ ・ 学習者自身が課題を設定し、調査方法を計画すること ・ 生活圏の課題の提示にとどまらず、解消・改善を視野に地域社会の持続性に着目すること	一斉	○この条件のほかに、調査結果を Google slide にまとめること、GIS、デジタル地図、統計などを活用することを条件として設定する。	

展開 ①	課題の検討	<p>課題設定に向けて、生活圏の理想と現状のずれや隔たりを考察する。</p> <p>SQ1 あなたが「あこがれる」生活圏の姿、「可能性がある」と考える生活圏の姿は、どのようなものなのか【理想】</p> <p>SQ2 あなたがみる、生活圏の現状はどうなっているのか【現状】</p> <p>SQ3 あなたが捉えている、生活圏の「理想と現状」のずれや隔たりはどのようなものか</p>	個人	<p>OSQ1～3を順に提示</p> <p>○見出すことが難しい生徒には、視点の例を提示することで支援する。</p> <p>(提示する視点の例) 人口、災害対策、経済振興、観光資源、文化継承、環境保全、異文化理解・共生など</p> <p>(見出すことを期待したい地理的課題) 人口の高齢化、災害とその対策、地域の経済振興、観光資源の活用、地域文化の継承、環境の保全、国際化と異文化への理解や共生など</p>	【態】前時の活動を基に、生活圏の課題を見出そうとしている。
	課題の設定	<p>課題を設定する。(第1段階)</p> <p>SQ3の解をもとに、解決したい課題を設定する。</p> <p>自分が設定した課題の価値を省察する。</p> <p>SQ4 設定した課題は、どんな価値があるか(そもそも価値があるか)</p> <p>SQ5 その課題が解決されることで、幸福を享受するのは誰なのか</p> <p>SQ6 課題が解決されていくことにわくわくする(期待できる)ものか</p> <p>SQ7 そこに当事者として、自分はいるか(参画できるものか)</p> <p>SQ8 持続可能性や実現可能性は考えられているか</p> <p>SQ9 地理的な見方・考え方を踏まえたものとなっているか</p> <p>課題を設定する。(第2段階)</p> <p>SQ4～9の解をもとに、第1段階で設定した課題を修正する。修正した課題、調査の趣旨、価値を「調査構想シート」に記入する。</p> <p>自分が設定した課題とその価値について他者と議論する。</p> <p>○設定した課題や価値等が書かれた「調査構想シート」をグループ内で発表し、意見交換を行う。意見交換を基に必要なに応じて修正する。</p>	個人 個人 個人 個人 個人 個人 個人	<p>なぜ～となってしまうのだろうか。=背景・原因 どうすれば、～が解決できるのだろうか。=方法・提案</p> <p>○この後課題は、段階的に設定されていくものであることを説明する。</p> <p>○課題を設定した学習者へ「揺さぶり」をかける。 ※SQ4～9は、生徒の状況に応じて、問いかける。</p> <p>○選択した課題の深刻性の根拠となる情報を収集し、最終的には報告書等で示すことを条件として提示する。</p> <p>○調査趣旨の明確化をはかる。</p> <p>○「調査構想シート(仮称)」は、Figma内の各ワークスペースを基本とする。</p>	
展開 ②			個人 個人 個人 個人 個人		【思】地域社会の持続性に着目し、根拠のある深刻性と価値が伴った、適切な問いが表現できている。
			個人		
終末	本時の問いの解	<p>(問い)私たちの地域はどのように変化し、どのような課題がみられるのだろうか</p> <p>○「調査構想シート」に書かれた課題を確認し、本時の問いの解が見出せたことを理解する。</p> <p>SQ10 どうすればその課題は解決するのだろうか</p>	グループ		【知】意見交換や他の学習者の発表を、自分の調査に生かそうとしている。
					【知:評定に用いる評価】探究の手法について理解し、適切な問いが立てられている。
				○次回の活動「仮説」に向かう問いを投げかける	